

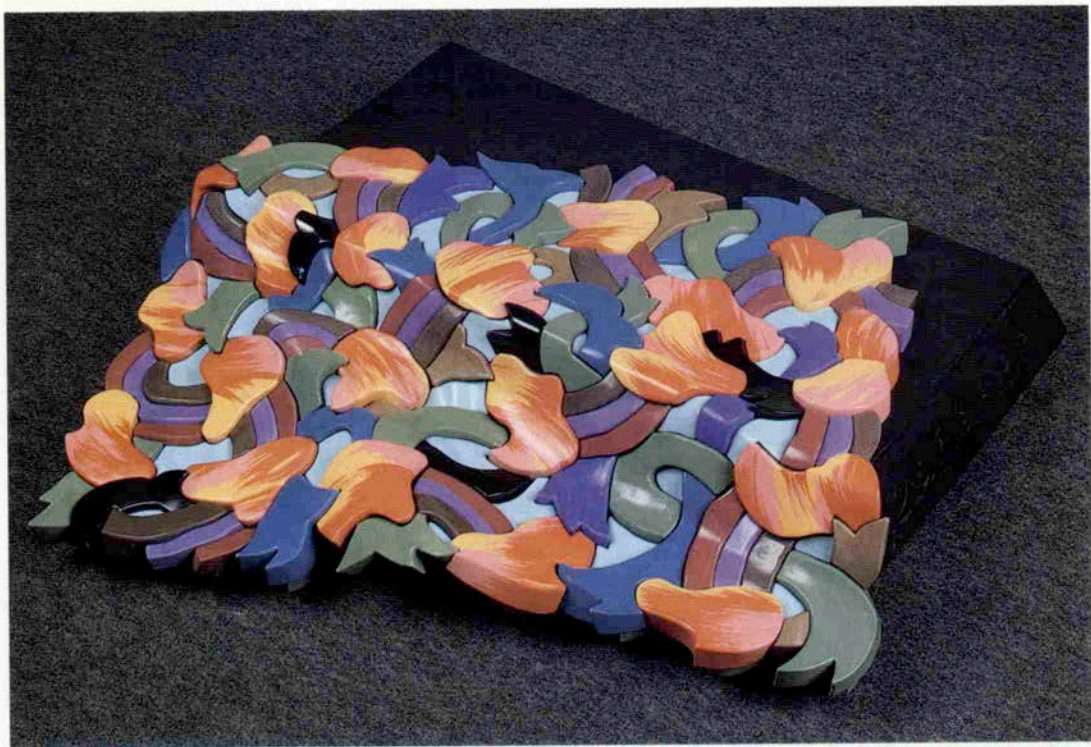
新しきクリエイター

# 美の小箱 重松あゆみ

文・赤根和生 〔美術評論家〕

陶芸といえば、工芸の分野に入れられるのが常だが、陶彫なる領域もあるのだから、重松のように、おさまりかえった旧来の個体に抗し、立体的になることさえ、極力排して、平面に撤する作品は、さしずめ、陶画とでもいうべきか。それほど絵画性をうたいあげているからである。しかも、画（？）面は奔放な抽象で、緊密に結びついた、というよりは、色彩が同時にフォルムでもある明解な文節に区切られた個々のユニットとして、相乗的に全体へとリズムカルに高まる。それはさながら、ジグソーパズルのごとく、謎めいた絡みをみせながら有機的なダイナミズムもユニークだが、何よりもその色調のみごとさ！ 深く沈んだ温かさは、きらびやか、あるいは冷ややかな硬質の光沢の及ぶところではない。それもそのはず、釉薬はつかわず、素焼。陶片に色化粧（泥水に顔料をとかしたもの）を施し、緑はクロムを混ぜ、黒は本格的な黒陶を。という念の入りよう……それを低温で焼きあげた、いわば軟陶を丹念に磨くという技法によるしつとりとした効果なのである。

絵画性も含めて芸術である以上、空間表現でなければならぬが、〈空間から環境へ〉の造形芸術の趨勢もさることながら、〈環境意識〉は今日の常識でさえある。また鑑賞が〈参加〉の語におき替えられてから久しいが、コミュニケーション時代もまたそうした現実のなかから生起した。環境性はかつてのミニメンタリテイに対立する概念で、彫刻が、記念碑性のシンボルとしての台座を下りた時点で環境そのものとなったように、絵画に付きものの額縁を追放した時点で環境に踏み込んでいる。技術的には完璧なのだから、対面性だけにこだわらず参加者を包み込んで充足させる展示によってこそ、その実が果されるべきだろう。



89-ORW-15

素材 彩色黒陶

重松 あゆみ



- 1958年 大阪府豊中市生まれ
- 1982年 個展(ギャラリーマロニエ・京都)  
京展・市長賞
- 1983年 京都市立芸術大学大学院 陶磁器専攻修了  
京都クラフト展・奨励賞
- 1984年 個展(ギャラリー白・大阪)  
朝日現代クラフト展・優秀賞
- 1986年 個展(ギャラリー玄海・東京)
- 1987年 個展(ギャラリー紅・京都)
- 1988年 大阪現代アートフェア'88
- 1989年 個展(シティギャラリー・神戸)  
国際陶磁器フェスティバル'89美濃・審査員特別賞  
個展(三越本店・東京)



明るくスペインのディタイムはカジュアルに愉しむ ↓  
ミッドナイトはロマンティックに。(井上真由美・パール  
スタイル)



ナチュラルな赤茶色がひととき新鮮や  
か。首都会っばいいイメージは大人の  
お洒落。(宇敷道子・ジャヴァ)



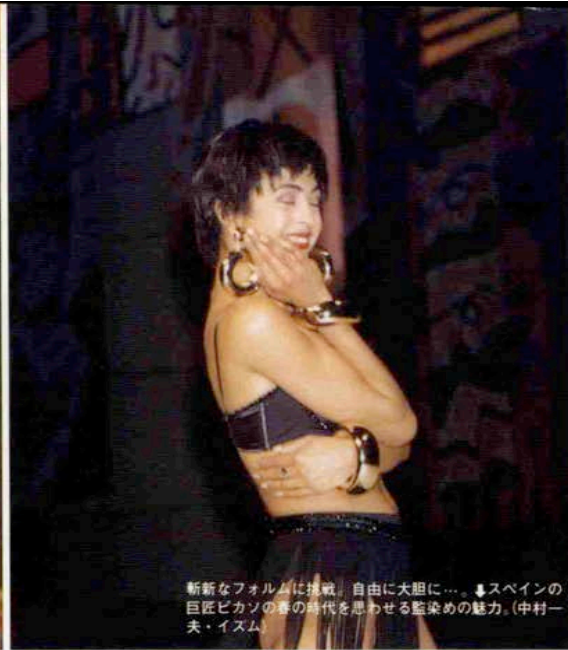
特集

# WFF IN KOBE

美感遊創の祭典 / PLAY BACK

昨年11月、華やかに繰りひろげられた  
WFF 89 ファッションイベントの中で注  
目を集めた「ニューヨークエターと日比  
野克彦90春夏コレクション」は、KOB  
E発のオリジナリティ溢れたショーとな  
り、新しい方向性を見いだすプロトタイ  
プとして今後の活躍が大いに期待される  
ものであった。





斬新なフォルムに挑戦。自由に大胆に…。↓スペインの巨匠ピカソの春の時代を思わせる監染めの魅力。(中村一夫・イズム)



アヴァンギャルドに迫るビスチェ・ルネ。会バワフルなカラーは情熱の国・スペインにふさわしい。(松永千春・ワールド)



# 笑顔の優しさがひとときわ映えます、春の色。

透りガラス越しに見る、ニョアンスのあるカラー。  
甘いパステルとは一味違う、粉っぽい色。  
新しい年の始めに身にまといたいのは、  
こんなパウダーカラーたちです。

朝選んだ服で、その日の気分が左右されることも  
あり得ること。だからこそ、優しい気持ちに  
なれるものを選んでみたいのです。

春の訪れを感じさせる色で街をゆけば  
また新しい自分が発見できそうな気がします。



ふわと軽やかなアクセント。  
●ヘ大丸直輸入  
スカーフ……4,300円  
(絹100%、フランス製)  
1階シーズンプラザ



コンテンポラリーなミセスにぴったりの色。  
●ベルスプーク  
ジャケット(毛100%)……63,000円  
パンツ(毛100%)……39,000円  
ブラウス(絹100%)……47,000円  
3階ハイファッションカジュアル



DAIMARU KOBE

電話(078)331-8121

新春は1月3日⑧11時から営業。(3日⑨は6時まで)  
1月17日⑧・18日⑨は連休させていただきます。

# SOPHISTICATE SPRING



こんなに、神戸です。

# 謹 賀 新 年

’90年は心をこめた手作りの味わいを

新しい年も “にしむら珈琲店” をよろしくお願い申し上げます。

昨年春には、毎年行われるミナハワイコナコーヒーの審査会に、全日本グルメコーヒー協会から代表として1位になった “ミス” にティアラや花束のプレゼンテーターとして出席致しました。日本で見られぬ様な華やかな審査会で、会場のフイーバーぶりは圧巻でした。

左ページの写真にありますが様に、仕事の合間にコッコッ作っておりますカリフォルニア・ファンシーエッグの大会が、今年3月ロスであります。又、日本代表として参加致します。



帰国後、今までに作りました木彫と玉子のアートとのドッキングした作品展を、みかげ店3Fのフレンドサロンで開く予定でございます。その時は神戸っ子誌上にてご案内致しますので、どうぞご覧下さいませ。

趣味のことばかり書きましたが、もちろん “にしむら珈琲店” がますます皆様に可愛いがられる様な店作りにな心して参ります。



読売テレビの“世界のトピックス”の中で放映された、大阪OBP店のオリジナルクリスマスツリーです。玉子250個の中身を抜き1個1個ドリルで透かし模様を施し、中に電球を入れました。また、手編みの帽子を被せた人形など。

制作・デザイン 川瀬喜代子



にしむら珈琲店

Kobe.Ashiya.Osaka

ヨーロッパの豊かな歴史と伝統を継承した高級ホテル



<16F>バルセロナ Barcelona



HOTEL GAUFRES RITZ  
KOBEPiA

ホテルゴーフルリッツ

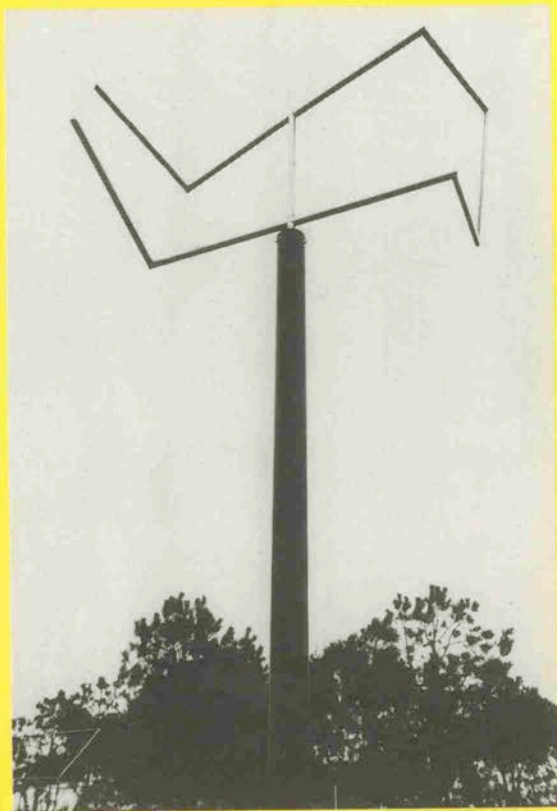
神戸 且月堂 港島

ご予約 ☎(078)303-5555  
お問い合わせ

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目1番

(ポートライナー市民広場駅下車北へ、商工会議所とツインビル)





松本薫作  
From 90° to 90°「T」

これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です

## 1月号目次 ● 1990・No.345

表紙／(故)小磯良平

セカンドカバー／西村 功

11 神戸っ子90／田仲留美子・増田晴信

14 ある集い／神商コーラス部・テレマンアンサンブル

17 コウベスナップ／NHK杯国際フィギュアスケート

18 美の小箱／文・赤根和生 絵・重松あゆみ

31 私の意見／山村恒年

32 第14回 神戸文学賞受賞者発表

35 随想四題／末次攝子・望月美佐・白髪一雄・高井翠花

39 地域文化論／米花稔

40 連載随想 旅のかたち (14) 雪の宿／安水稔和 絵・中西勝

42 珈琲のみながら／新谷秀紀

45 経済ポケットジャーナル

46 新春ビッグ対談Ⅰ／陳舜臣VS五木寛之

51 新春ビッグ対談Ⅱ／貝原俊民VS住野和子

57 話題の広場Ⅰ／神戸歌謡祭

58 キャンペーン国際都市神戸を考える／90年代の神戸文化について

池上忠治・野田正彰・小笠原暎・水谷嗣介・辻田忠弘

64 WFF in Kobe からの報告／ファッションフェア、ファッションタウン

街びらき、グルメメディアKobe

72 新春タカラヅカ対談／柴田福宏・杜けあき・一路真輝

83 ミラ／情報／大島知恵

84 神戸のお嬢さん／荒木美也子・沢谷美貴子

113 コーヒーブレイク

114 動物園飼育日記／ゾウの動物園史(4)・文・亀井一成

117 神戸の集いから／留学生フォーラム・竹村まことを祝うタベ

124 有馬時記／新春特別漫けむり対談

定山峡温泉VS有馬温泉

128 プロフェッサーPの研究室／岡田淳

130 神戸を福社の街に／橋本明

132 神戸百店会だより

134 モダンカルチャー

136 シネマ試写室／バック・トゥ・ザ・フューチャー2／淀川長治

138 ぴつといん

140 ポケットジャーナル

143 話題のひろばⅡ／兵庫大仏台座完成

144 るぼるたーじゅ神戸／西神ブレンディ完成 文・有井基

148 神戸文学賞選考座談会／杜山悠・武田芳一・鄭承博

152 連載小説／風車の音はいらない(神戸文学賞受賞作品)／

上田三洋子 絵・小西保文

176 海・船・港／明岩フェリーあさしお丸就航

目次作品一松本薫

カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志



エキゾチズムが漂う  
「ニュー・トーキョー」元町店が  
今、甦る——。  
レトロにしてモダン  
エキセントリックなロマンとの  
出会いの始まり。

風見鶏がみた夢物語は  
何だろう。

# 新年会 予約承ります



①F ビヤホール「WELL」  
ウエル  
「樽から生まれたてのビールは、最高だぜ。」  
「自慢のチムニーロースター料理も最高ネ。」  
笑顔と会話がいっぱい。さあ、仲間が揃ったら  
“カンパイ”しようぜ——。  
●営業時間(平日) 11:30a.m.~ 2:00p.m.  
4:00p.m.~ 11:00p.m.

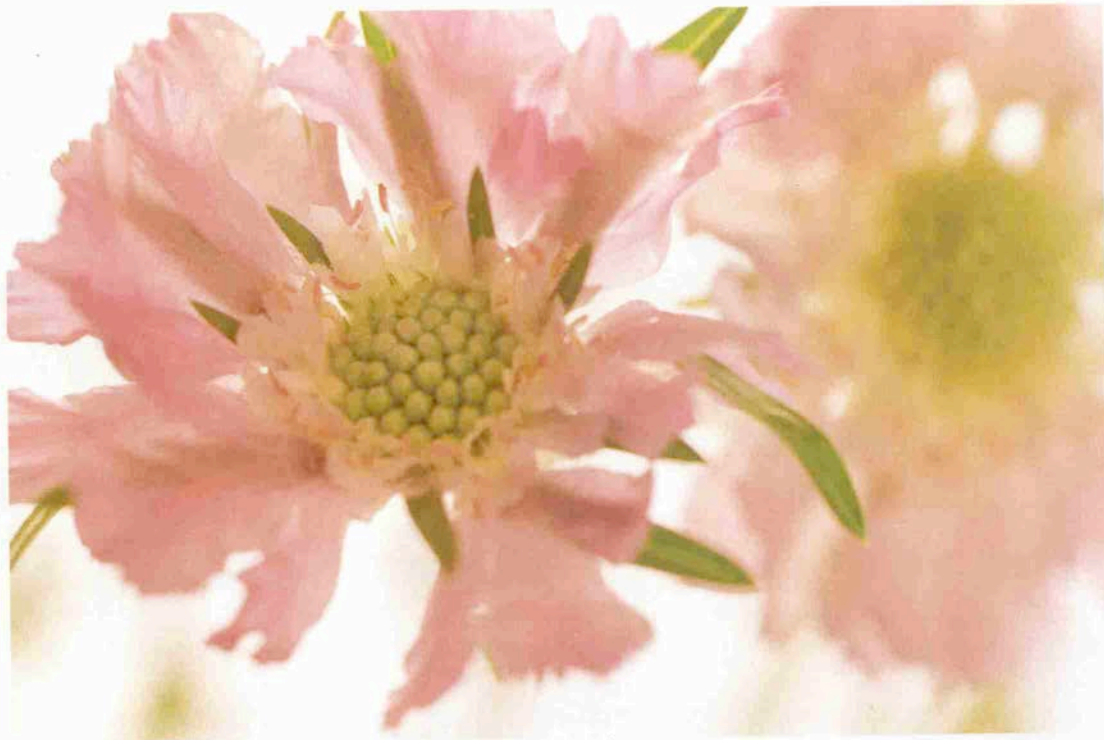
②F 居酒屋「さがみ」  
「とれたての魚って、  
舌にとろけるみたいでおいしい。」  
「熱燗片手に、旬の日本の味って、  
やっぱりうまい。」  
明石港直送の海の幸や、野や山の幸、  
旬の串やきを民芸調の雰囲気の中で  
存分に。(個室もご用意しています。)  
●営業時間(平日) 4:00p.m.~ 11:00p.m.

③F パーティールーム  
●洋室15~50名様用  
和やかな各種ご宴会、ご会合  
などお気軽にご利用くだ  
さい。

ご相談・ご予約はお気軽に 078-391-4511

神戸元町「1-1-1」

TEL 078(391)4511(大代)



花の夢

IMAGE OF KOBE

1 月

*Photo dy  
Yasuyuki Fujiwara*

KOBE  
MASA

さんちか店 (078) 321-4545 サンプラザ店 (078) 331-0950 須磨パティオ店 (078) 792-5652 西神ブレンディ店 (078) 992-0086  
北塚ファミリーストア店 (0797) 73-5359 千里阪急地下街店 (06) 831-0756 加古川店 (0794) 25-5514

# MAC ORIGINAL BRAND



楽しみだね、マックジュニア

## MACオリジナル商品

ダッフルコート  
¥39,000  
兼島達矢くん

Pコート  
¥29,000  
西田明子さん

フード付ジャンパー  
¥28,000  
有浦薫子さん

フード付ハーフコート  
¥19,800  
植村知美さん

ショートダッフルコート  
¥35,000  
植村一仁くん

フィールドコート  
¥27,000  
西田太一くん



**MAC**  
SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651

SANNOMIYA MAC	SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
THE BLAZER SHOP MAC	TOR-ROAD 078-391-0896
DOLCE MAC	SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
FESTA MAC	HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
BENET TON MAC	HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
FUJIIIDAIMARU MAC	KYOTO FUJIIIDAIMARU 2F 075-211-0857
SUNVIOLA MAC	TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
PLENTY MAC	SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

□わたしの意見

# 都市と環境の調和に市民参加を

山村恒年

△神戸大学法学部教授▽



神戸は私の好きな街である。だが、その神戸の街も変わりつつある。自然の良い環境が年毎に失われ、街の彼方にひろがっていた海も、埋立によってその姿を変えつつある。

同じウォーターフロント都市であるサンフランシスコと比べると神戸には問題点が多い。サンフランシスコでは、ベイ・プラン（湾環境計画）というのがある。それは、市民参加によって作られた環境保全・利用計画である。山側、陸域、湾域一帯の生態系の調査に基づいて、環境適性評価を行ない、地域の特質に応じた利用区分がなされ、土地の適性に反する利用の規制を行なっている。

その結果、海の埋立は原則として凍結された。衰退した沿岸の工場等は撤去され、その跡は市民のための憩いの場に再生されている。それには多くの市民の工夫が反映されている。神戸にもこのような「環境ベイ・プラン」が必要なのではなからうか。

株式会社神戸市といわれる市の行政は、市の企業的经营という面では評価されている。しかし、布引公園のロープウエーの建設やその旧ゴルフ場跡の整備、旧谷崎潤一郎邸の移転問題等、住民運動からは、その開発指向が強く批判されている。

市民参加のやり方でも「意見があつたら述べて下さい」式の消極的なやり方では不十分である。市の職員が自ら、市民とねばり強く接触し、その意向やアイデアを汲みあげていくという積極性が必要である。

神戸市の行政にも、北野の異人館街などの景観形成行政にはすぐれた面もある。しかし、最近では派手なみやげ品店などの乱立や異人館の客引など、観光化の悪い面が目立つ。神戸の街は、観光都市化するよりも、文化都市化の方向を目指すべきではないか。

神戸の自然も、ロープウエーや箱物で俗化させるよりも、自然にだけ合った利用をめざすべきではなからうか。大学のキャンパスから見降す神戸の街を見るにつけ、神戸が、自然豊かな文化都市として生きつづけることを願うものである。

月刊神戸っ子主催〈第14回〉

# 神戸文学賞発表

昭和五十一年、小誌は創刊15周年記念事業として、作家を志す有為の新人に新しく道を開くために「神戸文学賞」および「神戸女流文学賞」を創設し、第12回目より、さらなる質の向上を図るため、両賞を「神戸文学賞」に一本化し、作品募集地域を西日本より全国にさせていただきました。第14回作品募集は、昨年九月末に締切り、全国各地から多数の応募作が寄せられ、別記の選考委員により最終選考を行い左記の作品が第14回の受賞作・佳作と決定しましたのでここに発表します。△受賞式は一月二十三日（火）オリエンタルホテル大ホールで行います▽

神戸文学賞受賞 上田三洋子（うへだ・みよこ）

「風車の音はいらない」



△略歴▽

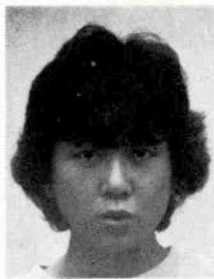
一九二九年石川県生まれ。県立小松高女卒業。約八年前から小説を書き始め、現在とはほぼ同人小説のみならず短歌にも才能を発揮している。

△受賞の言葉▽

価値観選択肢のさまたちを、今回は肩の力を抜いて創ってみた。それが幸いしたのか思いがけぬ受賞に感謝。気の多い私に足止め役をし集中して創作せよということかとネジ巻きの始めている。

神戸文学賞佳作 伊々田 桃（いいた・もも）

「夏の遠景」



△略歴▽

一九六〇年奈良県生まれ。大阪芸術大学芸術学部文芸学科卒業。同人雑誌「我流」執筆同人・編集委員。大和路を一人で見聞した雑記を作成中。

△受賞の言葉▽

未熟さを意識し続けた五年間だったように思います。未熟さに突き当たったときに、自分をなだめたり、あるいは叱ったり。佳作入選は、今後への強い励みとなりました。ありがとうございました。

○受賞候補作

「床屋の細君」

野地 慎生  
△長崎県▽

「風車の音はいらない」

上田三洋子  
△京都府▽

「北京日本大使館」

松原 栄  
△京都府▽

「ハーネスよ、語れ」

藤森 恒夫  
△長野県▽

「狐火」

畑 裕子  
△滋賀県▽

「蜜月旅行」

水野 朝美  
△大阪府▽

「別墅の宵」

福永タミ子  
△広島県▽

「夏の遠景」

伊々田 桃  
△奈良県▽

□選考委員

杜山 悠

武田 芳一

鄭 承博

主催 月刊 神戸っ子

## ●第14回神戸文学賞受賞者

上田三洋子（うへだ・みよこ）

キャリア8年で頭角を表わす

小説を書き初めてから、まだ8年余りのキャリアにも関わらず、第14回「神戸文学賞」を受賞した上田三洋子さんは、石川県小松市の生まれ育ち。さぞかし文学少女だったのだろうと伺うと、「小さい頃から小説も含めて、本はほとんど読んだことがあります」と語る。「時間潰しに人の書いたものを読んでいううちに『この位なら私にも書けるわ』と思って……」大阪茨木のとぼす同人に参加し、めきめき頭角を表わした。

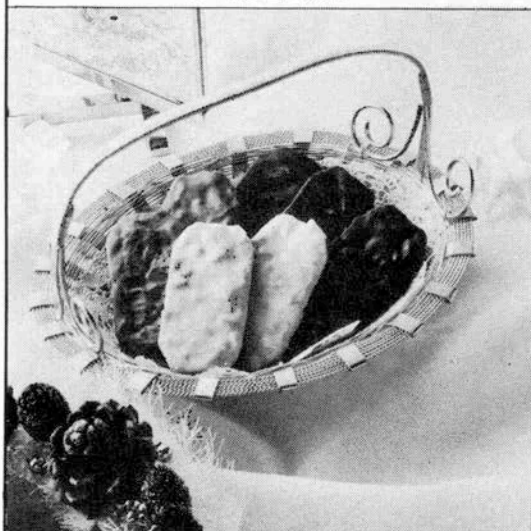
現在は京都・長岡京市に息子さん一家と住んでいる。短歌、ろうけつ染め、アートフラワー、油絵と趣味にも忙しいが、今一番熱中していることは社交ダンス。自ら「アウトドア派の作家」と称すだけあって、体を動かすことが大好き。「好きな作家は初期の安部公房」と語る上田さんの次の目標は、神戸から全国に名を轟かせることである。

（さんちかにて）



# RHEINGOLD

ラインゴールド



特級バターたっぷりのビスケット生地に

炒りたてのナッツを入れて

チョコレートでコーティングした、

3つの黄金の味わい。

素敵なセピア缶に詰合せて、新発売。

¥1,000 (15包入)

¥2,000 (30包入)

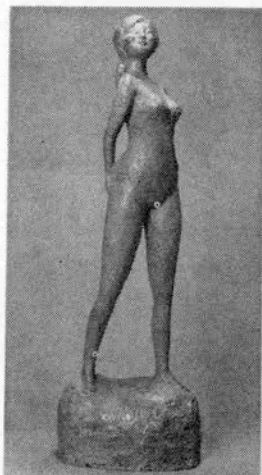
¥3,000 (45包入)



**ユ-ハイム**

※記載しております価格は、消費税抜きの価格です。

KAKINUMA GALLERY



「リズムが聞こえて」  
(彫塑・ブロンズ)

羽多 悦子・作

日本現代美術家連盟常任理事  
神戸女子短期大学助教授

「さあー、準備はいいですか」リズムが次第に大きく聞こえて、身体の中から爪先までがリズムを聞いています。胸を張って、空へと飛び立つように、躍動前の心準備が全身に満ち溢れて来て、観る人の心を弾ませます。

(柿沼産婦人科に展示1/4~1/31)

女性のためのオープンスペース  
★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)

**芦 柿沼産婦人科**



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

随想 四題

天馬空を行く

望月 美佐

△望月書道芸術院長△



平成元年は日本列島縦断で北は北海道から南は沖縄まで充実した活動を展開しました。11月23日から12月17日まで沖縄は実年のスポーツと文化の祭典をテーマに「サントピア沖縄」が開催され、23日の初日のオープニングセレモニーには一千人を前にして私の動の書を披露したのです。「ころにも、からだにも、あたたかい出会い」を6mの白に書き、4mの青には「讀士飛愛」、中央の赤には「沖縄」と大書。音と光の中の書のデモンストレーションははじめての沖縄の人々には大好評でした。

文化イベントとしても望月美佐作品展が26日まで繁華街の中心にある国際通りのベスト電気7階の豪華催会場で開催されました。「くらしに文字を」をテーマに、漢字・かな・現代文と、料紙も沖縄の月桃紙をはじめ、日本・中国、その他色々の加工紙を使用した書作品と美佐オリジナルの着物、帯、ネクタイなど多彩に展示し、16畳の舞台では1日2回笛の藤舎龍峰氏の共演で、紅白の屏風4日

間で8曲を書きチャリティオークション。春設立されたばかりの沖縄県長寿社会振興財団に30万円を寄付いたしました。私が第一号ということでご新聞やテレビにも放映され感激でした。

兵庫と沖縄は友愛県として貝原知事、西銘知事も大変親しくなされ、両知事のメッセージを頂戴しての今回の訪問でしたが「サントピア沖縄」の主旨の如く、健全なる身体に勝るものはなく、あたたか



沖縄で動の書を披露

い出会いにも感謝しております。調和のとれた生活に調和のとれた食生活、それには長寿県の沖縄の氣候、風土、食べ物に大変勉強になることが多かったと思います。

日本も昭和から平成の誕生という大きな変動がありました。世界各国でもそれぞれの移り変わりが日々報道されております。平成二年は新天皇の即位の大典もありますことすし、心あたたまる庚午（かのえのうま）年を迎えました。

天馬福星開寿城

きらめく星の中を天馬が福をもって寿城を開くという中国のことばです。縁起のよい、このことばを私は軸に額に色紙にと書いております。私の作品やオリジナルも日本中、いや世界中のより多くの人々の中で愛され、生きてくれることを念じ、私のこれまでの歩みを一層踏み固めて、より大きく天空に向って馳ける午どしでありたいと心から願っております。

# 神戸と私

白髪 一雄  
△アキシヨンペインター▽



神戸は私の幼時の思い出に、強い印象を印した町である。神戸へ行けばエキゾテイズムが味わえるという感覚が、私を惹き付けて成人して来た。

昔屋の山手に住んでいた伯父が、大変私を可愛がって呉れたが、伯父は散歩と称して、私をたびたび神戸へ連れて行って呉れた。ここでは外国人に逢えるという興味が、私のそこへ行きたいという願望を支配していた。

私が生まれ育った尼崎は、昭和の初期の頃にはまだまだ城下町の名残りが漂っていた。旧幕時代の朝鮮通信使節の重要な通路であったからか、韓国の人達も沢山住むようになって、町には絵から抜け出て来たような、白い装束にシルクハットの様な帽子を冠り、手に長い煙管を持った韓国紳士が、悠々と散歩しているという光景が、幼い私の記憶の中に浮び上ってくる。

神戸へ行くと先ずメリケン波止場から突堤へ行き、旅立つ船や遠い港外の水平線をじっと見すえていた。諏訪山に登り港を見下ろし

て、神戸の市街を眺めたこともある。

元町あたりへ戻ってくると、必ず西洋人を見ることが出来た。背の高い金髪の青い目の人達に、私は畏怖の念を抱いた。

南京町は今では立派な門が建ち、華やかなムードに満ちているが、当時は少し不潔なごみごみした町で、日本の他では見られない色彩や臭いが渦巻いていた。黒いピカピカ光る服を着て、纏足の小

さな足でチヨコチヨコ歩く中国人のお婆さんの姿が、今でも晩に浮かんで来る。

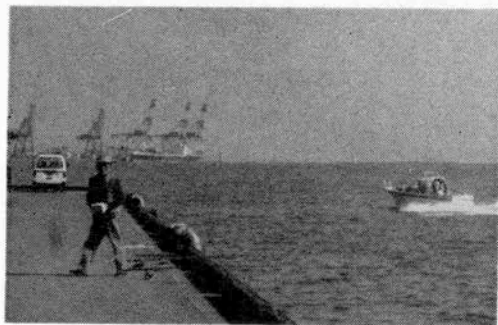
私達が当時西洋人と呼んでいた欧米の人達の中には、神戸を随分愛して永住して神戸に骨を埋めた人もあると聞く。六甲山にゴルフ場を日本で最初に開設したのは彼らであり、六甲や神戸の背山に横文字の地名が残っているのは、彼らの足跡を示すものである。

トゥエンティクロスとかアゴニ―坂とかの名が、神戸の自然の中に今も留められている。

神戸周辺の山々の自然は美しい。私は神戸市が作ったハイキングコース「太陽と緑の道」が好きで、随分歩いたものである。しかし最近はいろんな開発が進み、このコースも忘れられかけている様である。

神戸市が開発のために自然破壊をあえて進めるならば、必ず大きなつけが神戸市に何時か廻ってくるのではなからうか。

愛する神戸のために、自然保護をもっとしっかりやって貰いたいと思う。



神戸の港に遊ぶ

随想 四題

神戸が好き

末次 攝子  
〔ジャーナリスト〕  
〔大阪府参事〕



中山手教会前ブティック・マー  
ガレットの大きなガラス戸から、  
道ゆく女たちを見る。背すじを伸  
ばして脚どりが軽い。イタリア美  
女のパトリツァ夫人がポニティ  
ルのブロードをもたげて、剣道着  
姿で通る。私はわくわく「すてき、  
絵になる神戸ノ！よネエ」。あるじ

の藤本ハルミさんが色白の頬を紅  
潮させて「わが町神戸」を語りや  
まぬ。岡田美代さんや小泉美喜子  
さんがふらりと、あるいは次なる  
「はかりごとのため」現れて、一  
緒にお茶を呑む午後もある。

この三美女が、神戸の街のイベ  
ントプロデューサーと気づく。た  
のしいことが大好きで、多彩な趣  
向。女も男もまきこみ、財界人、  
役人もとりこむしたかさ。「そ  
うよお、大阪とちがって神戸の男  
性はスマートで親切なのよ」と  
じまんする。

十余余り前「男ばかりがたてま  
え」のパーボンクラブの仲間に入  
れてもらっていたことがあった。  
加藤宮司さん、筒井康隆さん、石  
阪画伯、小曽根さん、中西さん、

ひげのキャンティさん、宮田さん  
それに陳舜臣さん、新井満ちゃん  
みんな明るくて親切で遊び上手。  
この人たちを通して私は神戸の男  
を眺めているのかもしれない。

近年は新野幸次郎先生としばし  
ばご一緒して、そのマイルドなお  
人柄、会議の気くばり、まとめ上  
げる呼吸のすばらしさに惚れ惚れ  
する。古くは昭和二十一年に京都  
の新聞社で机を並べて以来の友人  
もすてきな紳士、森本泰好さんで



神戸まつりで末次さん（左）と小山乃里子さん

ある。

カモカのおっちゃんとお聖さん  
も、いまだに神戸イメージの上に  
在るおひとだ。二十年ほど昔、  
田辺邸で奈良本辰也先生とおよば  
れして、終電車の階段を息せき切  
って駆けのぼった記憶も。

思い返すとTVの仕事でこの街  
へしばしば通った。島津貴子夫妻  
新婚旅行のお膳立てをして、神戸  
港から関西汽船くれない丸で別府  
へ向った。昭和三十五年五月二日  
朝の晴れがましい思い出はさてお  
き、三島由紀夫の劇的な死を知っ  
た秋の日——ドキュメンタリー取  
材のため、フロインドリーブ、ロ  
ーマイヤー、と走るタクシーの中  
で正午のニュースが三島事件を告  
げたのだ。私は着くまで、会社  
にすつとんで帰ったのだった。

一九〇〇年生れの母が「あたし  
は六つの時神戸へ行って「外国の  
町」と思ったのよ」と雪の北海道  
で、幼児期の私にしばしば語っ  
た。いまその神戸とのご縁をつづ  
ることがなつかしい。

# 花の心を大切に

高井 翠花  
 (佳生流家元理事)



松とバラは出会いがなければ、  
 新春にはストレリチアと取り合せ  
 て輝きを表現しようとか「出合  
 い」と言う言葉を大切にします。

私達燦の会はこの度花とインテ  
 リア家具との出合いを試みまし  
 た。生田神社社会館ロビーを第一会  
 場に、訪れた人々は池のある風景  
 を眺め乍ら可愛いすみのれ小品花  
 に見惚れたり、豪華な姿見に調和  
 したオンシジューム、飾り棚を生  
 かして果物やおもちゃの車を配し  
 た盛物、ブルーのソファに何げ  
 なくころがしたフォックスフェイ  
 スについ笑顔がほころび、紫の鮮  
 かなあじさいやデンファレの色も  
 美しいなまの花さながらのドライ  
 フラワーに見とれ、和紙やラメ入  
 り布地にラッピングされたバラの  
 商品棚に感心しながら、現代立華  
 あり格花あり女性ならではの作品  
 が人々の足を第二会場へと運ばせ  
 ました。常設の有名作家の絵画や  
 書も巧みにインテリアとして取り  
 込んだり、机や椅子やスタンドな  
 ど家具にまで生命を吹き込んだ造  
 形の数々を眺め乍ら茶菓のおもて

なしをし、日頃の会員の和がその  
 まま会場の雰囲気となつて観る人  
 の心をなごませました。

燦の会は流派を超えて兵庫県の  
 女流いけばな作家16人が親睦と研  
 鑽をモットーに集い早や16年。そ  
 の間精魂込めた作品を発表してま  
 いりましたが、メンバーの出入りも  
 あり現在の流派9名に若い息吹を  
 加え正副会員18名で構成され、時  
 には研修旅行や、講師を各界から  
 招いての勉強会を企画し共にはげ  
 んでいます。生涯現役をまさに実  
 践して居られる方々から学ぶ事多  
 く、年齢幅の広さも特筆すべきこ  
 とです。

今年は花博の年でもあり、私達  
 の現代感覚と日本の伝統である自  
 然美との調和を追求する作品を通  
 じていけばな的美、花の美しさを  
 世界の人々に伝える好機だと思ひ  
 ます。四季折々の花を愛でいつく  
 しむ優しさこそ人間に取って大切  
 な事です。いずれ訪れる高齢化社  
 会にむけて花の心を大切に、花を  
 いたわる心こそ最も大切な事では  
 ないでしょうか。



兵庫県女流いけばな燦の会 生け花展(昨年11月5・6日、生田神社社会館にて)

# 中世遺跡の草戸千軒町

― 福山の広島県立歴史博物館開く ―

米花 稔 (神戸大学名誉教授  
福山大学 教授)

ンである。

JR 福山駅をでて西すぐにかか  
る鉄橋、その下を流れる芦田川、  
そのすこし南の中州から草戸千軒  
の遺跡が現れたのである。昭和五  
年の河川改修工事によって、しか  
し川底遺跡の学術的発掘調査は、  
戦後昭和三十六年、福山市教育委  
員会によって手がけられた。昭和  
四十八年には市内に県による草戸  
千軒町遺跡調査所を設置、ついで  
調査研究所として本格的にとりく  
まれることになったという。

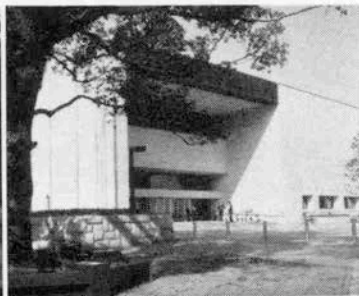
ここは中世室町時代当時湾入し  
て港町として荘園村落の物資集散  
で栄え、のち河口が南に移って衰  
退していたという。江戸時代寛文  
一三年の洪水で消滅して二五〇年  
のあと、さきにふれたように改修  
工事で見えられた。いま中世の  
まちの人々のくらしに想いをいた  
す興味深い展示がみられる。学界  
でも貴重な成果とされているとい  
う。

この県立博物館の館長には、本  
欄で一〇年前(昭和五四年一〇月  
号)に紹介した福山市松永の日本  
はきもの博物館を自らの仕事にか  
かわって設立せられた丸山茂樹氏  
という民間の経営者があてられて  
いるのも特徴的である。はきもの

山陽新幹線福山駅すぐ北に福山  
城(戦後再建)がある。その西側  
に平成元年一月三日広島県立歴  
史博物館が開館せられた。丁度一  
年前の文化の日(その北に市立ふ  
くやま美術館が既に開館してい  
る。お城のなかもやや小規模なが  
ら以前から市立博物館になってい  
る。駅近く一挙に文化ゾーンが形  
成せられ、まさに魅力を加えよう  
としている。あたかも数年前国宝  
姫路城の東北に、兵庫県立歴史博  
物館と姫路市立美術館がそろっ  
て、その一帯がまさに風格を加え  
たのと同じ感じがする。まちの規模  
も構造もそれ程ちがわない福山と  
姫路は、ともに県庁のない地方中  
核都市で、そこに県立歴史博物館  
が設置せられたことは興味深い。  
姫路の博物館は国宝のお城と播磨  
の歴史と文化がよりどころであ  
り、福山は全国的に知られた中世  
遺跡「草戸千軒町」と瀬戸内の歴  
史と文化が基礎となっている。

この福山の博物館は、「瀬戸内  
の歴史をたどる」展示室、開館記  
念企画「瀬戸内の塩」の展示もあ  
るが、草戸千軒町の一角を実物大  
に復元した「よみがえる草戸千軒」  
と発掘調査の「出土品はかたる」  
の二展示室がなんといってもメー

博物館は先年サントリ文化財団  
から地域文化賞を受けて知られて  
いる。そして副館長は引続きここ  
におかれる草戸千軒町遺跡調査研  
究所長である。この博物館には、  
学芸員を中心とする研究室と、右  
の研究所とが併置せられていて、  
これからの博物館の本来のあり方  
として、とりわけ特徴的と指摘せ  
られるのは姫路の兵庫県立歴史博  
物館長和田邦平氏である。展示と  
教育普及、調査研究、加えてまちの  
人々の文化交流の場にもなれば  
と、これからの期待している。旅  
のついでに一見をお奨めしたい。



広島県立歴史博物館



草戸千軒町の一部復元展示